

## 第3回宗像市行財政改革推進委員会 議事録（要点筆記）

日 時	平成 27 年 1 月 13 日（木） 19 時 00 分～21 時 20 分	会 場	第 2 委員会室
委 員	■（会長）宗像 優      ■（副会長）狭間 流 ■下田 真也              ■山下 永子              ■吉田 晴希              （敬称略）		
市	■中野経営企画部長      ■塔野経営企画課長      ■田中主幹兼企画係長 （事務局：経営企画課） ■立花行政評価係長      ■寺嶋		

### 1 開会あいさつ（会長）

### 2 報告

#### （1）第2回宗像市行財政改革推進委員会の議事録要旨について

○議事録要旨の内容について、修正等ないか確認

⇒全委員、了承

#### （2）第3次宗像市行財政改革大綱(案)パブリックコメントの実施状況について

○事務局よりパブリックコメントの実施状況について説明

### 3 協議

#### （1）第3次行財政改革アクションプラン(案)の協議方法について

○事務局が提案したアクションプランを中心にご審議いただくことを提案

⇒全委員、了承

#### （2）第3次行財政改革アクションプラン(案)について

○事務局より資料「宗像市における行財政改革アクションプランの実施状況」「第3次宗像市行財政改革アクションプラン(案)」の個別アクションプランを除く部分について説明し、質疑応答。

#### 【委員】

アクションプランの進捗管理について各所管課と行財政改革推進本部の違いは。また、進捗管理の報告が年に2回では期間が空きすぎではないか。

#### 【事務局】

アクションプランの進捗管理については基本的に各所管課で行うが、事務レベルでの調整は随時行うこととしている。行革推進本部での進捗管理は、経営企画課と各所管課で調整を行った結果を年に2回報告するというような形で考えている。

**【委員】**

アセットマネジメントについては、別に計画を作って実施していくということだが、位置づけの図では、行財政改革大綱の下にアセットマネジメント推進計画は位置づけられている。アセットマネジメント推進計画のレビューはこの行財政改革推進委員会ですということになるのか。

**【事務局】**

アセットマネジメント推進計画については、行財政改革アクションプランとは切り分けて策定、進捗管理等を行っていくので、行財政改革推進委員会のテーブルにはのらないということでご理解いただきたい。

**【委員】**

アセットマネジメント推進計画は現在策定中ということだが、参考までにいつぐらいにできて、どういった部署が策定しているのか教えていただきたい。

**【事務局】**

アセットマネジメント推進計画については、経営企画課と財政課の2課で事務局を行いながら策定している。今年度末の計画策定終了を目途にアセットマネジメントの審議会の方で審議していただいている。また、計画策定後も引き続きアセットの審議会の委員に進行管理もお願いしたいと考えている。アセットマネジメント推進計画の報告については行財政改革推進委員会でも行いたいと考えている。

**【委員】**

公共施設等のアセットマネジメントだけで計画を立てる。一方、事務事業は行財政改革で考えている。施設と事業が分離しているが問題ないか。

**【事務局】**

アセットマネジメントは公共施設等を将来にわたって適正に維持更新していこうというのが大きな目的であり、今後の市の投資可能な経費の中で維持更新計画を策定していこうというものである。行財政改革は、全体の財政の見通しと収支計画の乖離を埋める一手段として実施していくものなので、基本的には別物として考えて問題ないと思っている。

**【委員】**

今回の行財政改革推進委員会で審議する範ちゅうに、アセットマネジメントが入っていない。事業とアセットマネジメントはつながりがあると思う。そこが大丈夫なのか気になる。

**【事務局】**

アセットマネジメントは切り離して説明しているところだが、心配されている点は、建物への投資と効果をどう検証するのかということだと思う。公共施設の場合は、金額で測れないものがあり、投資と効果を金額だけを見るとというような考え方が適当ではないということとで別にしていてと理解していただきたい。

**【委員】**

資料の 2 ページの図では、行財政改革大綱と財政安定化プラン、アセットマネジメントが別のものであるように見える。関連性があるというところをもう少し強調しないとばらばらに見えるのではないかと。

**【事務局】**

財政安定化プランは具体的な実行計画ではなく、今後の成り行き収入と支出の財政状況を示し、それを改善するための収支計画を示したものである。財政安定化プランを達成する手法は様々あると考えている。その手法の一つが行財政改革アクションプランで、それによって収支の乖離額の幅を埋めていこうと考えている。アセットマネジメントは今回の行財政改革大綱の 2 本柱の一つとしているが、このアセットマネジメントは別に審議会を立ち上げて、別で進行管理をやっていく体制を考えており、アセットマネジメントの計画では、事務事業の細かな改善までは記載しないこととしている。行財政改革とは別にアセットマネジメントについては策定体制から進行管理体制を整えてやっているのだから、切り分けたというところはそういったところである。ただ関連性があるということで、必要に応じて行財政改革推進委員会でも報告していこうと思っている。

**【委員】**

財政安定化プランにより、財政状況がシビアであるということになれば、計画そのものは 5 ヶ年だが、次年度以降の計画策定分を変更し、1 年ごとにローリングしていくということか。

**【事務局】**

予算編成は 1 年ごとの歳入と歳出の状況を見ながら実施する。そのようにご認識いただきたい。

**【委員】**

「4 計画期間」に「個別のアクションプランについては 5 年間の間であれば任意で設定できる」と記載されている。任意というのはどういう手続で設定するのか、先ほど 5 年間でローリングという話があったが、設定というのが新設とか縮小や廃止を含むと思うが、どのような考えか。3 ページの推進体制イメージ図の左側の行財政改革推進本部のボックスに、全体の進捗管理、プランの評価見直しというのがある。その次の行にはもう結果報告という記載があり、結構飛躍が見られるなど感じた。

**【事務局】**

任意で設定というのは、計画当初に掲げていないプランは取り組まないということではなく、計画期間が始まった途中からでも計画を立てて取り組んでいくということである。一方、今回のプランの中に今後実施に向けて検討するプランもある。費用対効果などを検討するなかで実施を判断し、効果があるということであれば、実施に向けてアクションプランの変更を行い、逆に財政的に効果が出ないということであれば縮小もしくは廃止という形で、計画期間内であっても、変更を行う意味を含めて、任意でという記載をしている。

**【委員】**

変更の手続方法について、委員会への報告や、庁内などの手続方法があまり見えないのだが。

**【事務局】**

市の事務事業については、7月～10月の間に事業の見直し等も含めて次年度の事業計画を立案する。その段階で、行財政改革の視点で取り組めるものがあれば、次年度からの行財政改革アクションプランとして、所管課の方から新たに立案されるという流れになる。着手する半年前には立案されるため、内部での事務的な調整を経て、行財政改革推進本部の中で新規プランとして報告し、その後の行財政改革推進委員会に報告を考えている。

○事務局より資料「第3次宗像市行財政改革アクションプラン（案）」（6～7）について説明

**【委員】**

初期投資や維持管理費が出てない状況で効果目標の数字を判断するのは非常に難しい。例えば、発電事業など新たな初期投資が大きなプランに関しては、次回そのあたりの情報をいただければと思う。次に、3番目のプラン「事業スポンサーの導入」のところ、横浜市の事例で成人式のスポンサー収入が100万円あったということだが、400万人都市を宗像市の9万人都市に置き換えると、2万2,3千円しかない。スケールを考えると、効果額を横浜市の事例をもとに検討し試算したならば、大きな誤差が生じる恐れがある。再度検討した上で、しっかり見込める数字を今後詰めていっていただきたい。

**【事務局】**

積算資料を提示したい。

**【委員】**

第3次アクションプランの効果額がトータルで32億円目標となっているが、どういう形で出てきたのか。

**【事務局】**

効果目標の金額については、基本的には各所管課が計上した効果額を集計している。ただし、チャレンジ的要素を多く含んでいるプランもあり、目標としては高く掲げているプランもある。特に経営企画課が絡んでいるプランについては、チャレンジ的な部分を含んでいるとご認識いただければと思う。

**【委員】**

今回効果目標として計上している各年度の効果額は現状に対する単年度の積み上げ額か。対前年度との比較か。

**【事務局】**

効果目標額は基本的には 25 年度決算額を基礎に設定している。

**【委員】**

民間委託に関するプランがあるが、この民間委託をする目的は何か。業務を民間委託すると安くなるのか。民間に委託しても逆にコストが高くなる可能性もあるのではないか。コストを落とすためには固定費化した方が通常コストは落ちるので、組織内で取組む方がコストは落ちる場合が多いと思う。

**【事務局】**

民間委託については、すべてが経費の削減につながるというわけではないと考えているが、市の正規職員の人件費は、給与だけでなく雇用主負担分の社会保険料や退職金の負担など生涯ベースを一年で平均すると年間約 800 数十万円かかっているという状況である。民間委託をすれば、経費について安くなるのではないかとということも含めて検討する。

**【委員】**

プラン番号 13 番で、効果額の大きい 200 億円の基金について、26 年は 159 億円ではないか。今後は基金が取り崩されていくのに、200 億円が 5 年間ずっとそのままという話が成り立つのか。

**【事務局】**

基金の約 200 億円というのは一般会計だけではなく、特別会計も含めた金額である。基金の残額については、今後の推移というのはある程度見込めるが、具体的にどれぐらい基金が減るか今の段階では見込めない部分もあり、毎年度プランを見直していきたい。

**【委員】**

基金運用の関係で現在、国債の金利が非常に安くなっている。見直しの中で利子収入の目標 1.6 パーセントは変更するのか。

**【事務局】**

目標の1.6パーセントは変更を考えていない。市の基金運用は主に超長期の20年国債である。国債については、満期まで保有せず市場で売買を繰り返し行うことによって、国債市場の価格差で金利を確保していくというアクションプランであり、目標としては1.6%を確保していきたい。

**【委員】**

その件に関しては専門なので一点補足させてもらおうと、今既に持っている債権に関しては金利が下がることによって余計に儲かる。したがって、既存の20年債を持っているということなので、低金利になっている状況ではかなりの含み益があるかと思うので、キャピタルゲインを入れるということであれば、この1.6%はそう冒険した数字ではないと思う。インカムゲインだけではなくてキャピタルゲインまで含んだところでの数字だということに理解したい。

**【委員】**

資料1ページの「1 第3次行財政改革アクションプラン策定の背景」の「(2) 改革の必要性」の4行目に「収入の大幅な伸びは見込めない状況で」ということだが、今後5年間を見たときにこの表現でいいのか。これから相当厳しくなるから覚悟を持って行財政改革に取り組む流れではないのか。今までどおり、そんなに心配しなくていいですよというニュアンスになっているように感じたのだが。

**【事務局】**

大綱のときにも同じようなご意見をいただき議論をしたが、大幅な伸びが見込めない、よって、状況がますます厳しくなるというような表現で、大綱で整理させていただいた。

**【委員】**

個別プランの効果目標の積算根拠について、なぜこの数字が出てきたのかという資料を示していただければ、我々も今後検討しやすくなるかと思うので、次回準備ができればお願いしたい。

**【事務局】**

各アクションプランの目標額の積算根拠については、整理してお見せできるようにしたい。

## 4 その他

- ・第4回委員会の開催日について 平成27年2月13日（金）開催予定

○第4回委員会の開催日について、確認。了承